

高知県で採集されたオカメハゼ *Eleotris melanosoma* Bleeker の大型個体

高橋 弘明・橋本 健一

カワアナゴ科カワアナゴ属魚類 (Family Eleotridae, Genus *Eleotris*) は温帯～熱帯にかけての河川下流域, 河口域, 淡水の影響を受ける内湾域に生息する肉食性の底生性魚類で, 国内からはカワアナゴ *Eleotris oxycephala* Temminck and Schlegel, チチブモドキ *E. acanthopoma* Bleeker, オカメハゼ *E. melanosoma* Bleeker, テンジクカワアナゴ *E. fusca* (Bloch and Schneider) の4種が知られている (明仁ほか, 2000)。

高知県においてはこれら4種全てが記録されているが (高知県レッドデータブック [動物編] 編集委員会編, 2002), このうちオカメハゼについての記録は少なく, 四万十川 (建設省河川局河川環境課・財団法人リバーフロント整備センター編, 1995) のほか, 明仁親王 (1967) による採集場所不明の高知県産標本が知られているのみであった。著者らは今回, 高知県物部川から標準体長 178.1mm の大型個体を含む本種 8 個体を採集した。これは高知県から知られる本種の最大個体であると同時に, 大型の個体がこのようにまとまって採集されたのは高知県では前例がないためここに報告する。

材料と方法

標本は採集後, 活魚として持ち帰り生鮮時の写真撮影を行った後に 10%ホルマリン液で固定した。標本の計測にはノギス, 接眼マイクロメーターを用いた。頭部感覚管の観察はサイアニンプールのエタノール溶液により, 一時染色を施して行った。計数・計測方法ならびに分類については中坊編 (2000) に準拠した。また, 雌雄の判別は生殖突起の形状差 (明仁親王, 1967) によった。

本報告に使用した標本は徳島県立博物館魚類標本 (TKPM-P) として登録・保管した。標本に対する記載は, 標本番号, 個体数, 標準体長 (SL), 採集年月日, 採集地点名と括弧内にその標準地域メッシュコード (環境庁, 1997) の順とした。

結果

記載 オカメハゼ *Eleotris melanosoma* Bleeker (図1) 標本: TKPM-P 16474, 8 個体, 89.7 ~ 178.1mmSL, 2000 年 8 月 17 日, 高知県南国市前浜久枝, 物部川河口右岸後川合流部 (5033-25-34)。

背鰭 VI-I+8, 臀鰭 I+7 ~ 8, 胸鰭 18, 腹鰭 I+5. 縦列鱗数 46 ~ 52.

頭長に対する百分率 (% , 括弧内は平均値): 頭長 29.3 ~ 33.2 (31.3), 頭高 (眼の位置) 33.3 ~ 42.6 (37.5), 頭幅 (最大の位置) 65.1 ~ 77.5 (72.0), 両眼間隔 29.4 ~ 31.9 (30.9), 眼径 9.5 ~ 14.0 (12.3). 標準体長に対する百分率 (% , 括弧内は平均値): 全長 124.8 ~ 130.2 (126.6), 頭長 32.2 ~ 34.8 (33.3), 体高 (主鰓蓋骨後端) 19.0 ~ 22.1 (20.3), 体高 (背鰭基点) 20.6 ~ 22.7 (21.4), 体幅 (背鰭基点) 18.3 ~ 20.1 (19.2), 体幅 (臀鰭起点) 12.9 ~ 16.1 (14.6), 背鰭前長 42.9 ~ 46.2 (44.9), 腹鰭前長 33.2 ~ 36.5 (34.8), 第1背鰭基底長 14.1 ~ 18.3 (16.9), 第2背鰭基底長 14.1 ~ 16.1 (15.0), 臀鰭基底長 11.6 ~ 13.0 (12.5), 胸鰭長 23.1 ~ 27.0 (25.3), 腹鰭長 14.9 ~ 21.6 (18.6), 尾鰭長 23.3 ~ 27.1 (26.8), 尾柄長 26.0 ~ 28.3 (26.8), 尾柄高 11.5 ~ 13.0 (12.3).

体型は全体にずんどうで, 躯幹部の横断面は円形に近い。頭部はやや縦偏する。下顎は上顎前方に突出し, 大型個体では下顎が上方に湾曲する傾向が顕著である。鼻孔は互いに離れる。前鼻孔は長い吻管を形成し, 先端は上唇前縁部に達する。後鼻孔は眼の前縁直前に開口する。頭部全域に孔器列が発達する。頬の横列孔器列は6本で, 前から3, 4番目の孔器列は眼下の縦走孔器列 A を越える。鰓蓋部の孔器列は3本で, このうち, 鰓蓋背方から下方に走る斜走列と鰓蓋下方を走る縦走列は, それらの後端が鰓蓋後縁部で接する。こうした特徴は明仁ほか (2000) のオカメハゼの頭部感覚器官の図 (1273 頁の図 5-1) に一致し, 観察した8標本間で変異は認められなかった。

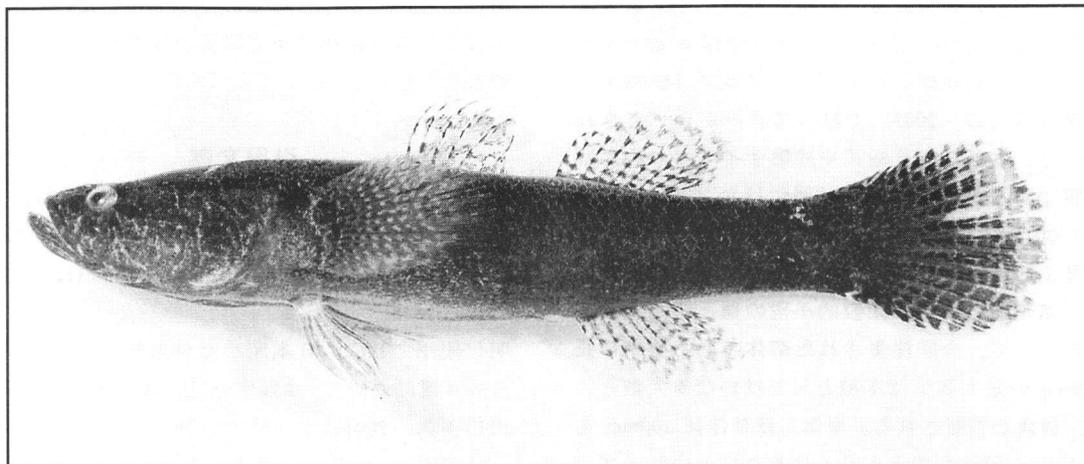


図1. オカメハゼ *Eleotris melanosoma* (178.1mmSL, TKPM-P 16474)

生時の体色は他のカワアナゴ属魚類と同様に個体の状態によって著しく変化するが、基本的には体全体が黒褐色化する場合と、体色の明るい状態および体背部の乳白色と体側部の黒褐色が明瞭なコントラストを成す場合の3パターンが観察された。体色が明るい状態では胸鰭、尾鰭の基部上端に輪郭の不明瞭な黒色斑が観察されるが、暗色化した状態ではほとんど周囲の皮膚の色と同化してこれらの黒色斑は判別不能となった。各鰭に黒褐色と乳白色の帯が交互に存在するが、第一背鰭においては特に明瞭で、暗色部と明色部がそれぞれ2本の太い縦帯を成し、明色部は黄色味を帯びていた。また、眼下には数本の輪郭の不明瞭な黒色斜帯が認められた。同時に採集されたカワアナゴと比較して、生時の体色は全体に赤味が強く、特に頭部側面と腹部ではこの傾向が顕著であった。また、カワアナゴでは、下顎先端付近から頭部腹面および側面下方にかけて、黄色味を帯びた乳白色の斑点が散在したが、本種にはこのような斑点は認められなかった。ホルマリン固定後は全ての個体が一様に黒褐色となったが、胸鰭基底上部の黒色斑は不明瞭ながら判別可能であった。

分布 国内では、静岡県から沖縄県西表島にかけての太平洋沿岸地域に分布するほか、国外では台湾、中国からインド・太平洋地域に広く分布する(明仁ほか, 2000; 明仁親王, 1967; 岩田, 2001)。

四国では高知県のみから知られており、物部川(本報)、四万十川(建設省河川局河川環境課・財団法人リバーフロント整備センター編, 1995)のほか、明仁親王(1967)による採集場所不明の記録がある。また、この他に奈半利川、蛸瀬川、松田川からも採集されている(高橋, 未発表)。

生息状況 物部川では河口部に拳大の石を円錐状に積み上げた通称「いしぐろ」と呼ばれるウナギ捕獲用のトラップが多数設置されており、本種は漁業者がこのトラップを解体した際にウナギ、カワアナゴと共に採集された。「いしぐろ」の周辺にはヨシ帯や人頭大の転石等もみられるが、これら周辺環境からは同年10月に全長40mmの本種若魚が1個体採集されたのみであった(高橋, 未発表)。

考 察

調査標本は頭部孔器列の発達状態および、胸鰭、尾鰭各基底上部に1黒色斑を有すること、下顎先端付近から頭部腹面および側面下方にかけて乳白色斑を欠くこと等の色斑の特徴が明仁ほか(2000)のオカメハゼに一致する。本種は高知県内での採集例が少なく、かつ過去に採取された個体の多くが全長50mm未満の若魚である(高橋, 未発表)。このため、本種は高知県内では黒潮流によって本県以南から供給されるのみで、再生産が

行われない無効分散種（死滅回遊魚）である可能性を否定できないことから、高知県版レッドデータブック（高知県レッドデータブック〔動物編〕編集委員会編，2002）では「情報不足種」とされている。本種の成長様式や成熟サイズについては不明であるが、標準体長は明仁ほか（2000）や岩田（2001）では150mm、宮地ほか（1982）では130mmを越えないとされていることから、日本産カワアナゴ属魚類の中では比較的小型の種といえよう。したがって、今回採集された個体のうち標準体長178mmの最大個体は本種としてはかなり大型といえ、成魚と判断される。また、標準体長100mmを越える4個体も成魚もしくはそれに近いサイズである。これらの個体は明仁親王（1967）によるカワアナゴ属の生殖突起の雌雄差を基準とすれば、いずれもオスと判定される。今回採集された個体はその大きさから見て当歳魚ではなく、物部川に数年間生息していた個体である可能性があるが、メスの大型個体が得られていないことや、県内での採集状況から見てカワアナゴやチチブモドキと比較して生息数が非常に少ないと考えられることから、依然として高知県内における再生産の有無については不明である。

謝 辞

本稿をまとめるにあたり、標本を登録・保管頂いた徳島県立博物館の佐藤陽一博士、物部川における魚類相調査に格別の御協力を頂いた物部川漁

業協同組合の皆様、採集にご協力頂いた株式会社西日本科学技術研究所の岡慎一郎君に心よりお礼申し上げます。

引用文献

- 明仁・坂本勝一・池田裕二・岩田明久．2000．ハゼ亜目．中坊徹次編，日本産魚類検索 全種の同定（第二版）．東海大学出版会，東京．1139-1310，1605-1628．
- 明仁親王．1967．日本産ハゼ科魚類カワアナゴ属の4種について．魚類学雑誌，14（4/6）：135-166．
- 岩田明久．2001．カワアナゴ属，オカメハゼ，カワアナゴ，テンジクカワアナゴ，チチブモドキ．川那部浩哉・水野信彦・細谷和海編，山溪カラー名鑑 改訂版 日本の淡水魚．山と溪谷社，東京．552-555．
- 建設省河川局河川環境課・財団法人リバーフロント整備センター編．1995．四万十川（渡川）の魚類．平成4年度河川水辺の国勢調査年鑑 魚介類調査編．山海堂，東京．484-500．
- 高知県レッドデータブック〔動物編〕編集委員会編．2002．高知県レッドデータブック〔動物編〕—高知県の絶滅のおそれのある野生動物—．高知県文化環境部環境保全課，高知．470pp．
- （たかはし ひろあき 〒792-0011 新居浜市西原町 3-5-3 住鉱テクノリサーチ株式会社，はしもと けんいち 〒336-0026 埼玉県さいたま市南区辻 3-1-21）